

再生可能エネルギー事業をグローバルに展開する Mainstream Renewable Power への出資参画



2022年3月24日
三井物産株式会社

本日はお忙しい中お集まり頂き誠にありがとうございます。三井物産プロジェクト本部の中井と申します。

この度、当社はアイルランドに本社のあるグローバル再生可能エネルギー事業者Mainstream Renewable Power（Mainstream）に出資参画することを決定しました。

当社はMainstream参画を通じて、規模感ある再生可能エネルギーの開発を加速し、三井物産が掲げる2030年GHGインパクト半減という目標達成に繋がると共に、同社株主Akerグループとの連携も通じた再エネをコアとする事業群形成に取り組みます。

それでは説明に入らせて頂きます。

目次

1. 案件概要
2. Mainstream概要
3. Mainstream競争優位性
4. Akerグループ概要
5. Mainstreamの企業価値向上
6. 気候変動を機会とする事業への取組方針と本件の位置づけ
7. 再エネをコアとした強い事業群の形成

本日説明させて頂く内容は、スライドに記載の7点です。

1. 案件概要

事業概要	ノルウェー/Akerグループ再生可能エネルギー（“再エネ”）事業者 Mainstream Renewable Power社(“Mainstream”)への出資参画
当社出資額	EUR 575MM (第三者割当増資の引受)
出資時期	2022年4月
出資比率	Mainstream持株会社 (Aker Mainstream Renewable AS): 100% (Mainstream持株会社への出資を通じて当社が27.5%、Aker Horizons が54.4%、その他株主が18.1%を間接保有)

先ず案件概要です。

当社はMainstream持株会社Aker Mainstream Renewable Powerが実施する575百万ユーロの第三者割当増資の引き受けを通じて、Mainstreamの27.5%の株主になります。当社は2016年よりAkerグループとブラジル・ペトロブラス向けの海洋作業船事業を推進しており、両社のパートナーシップが、今回随契・相対協議でのMainstream参画に繋がりました。

当社参画後の出資比率は、Akerグループが54.4%、その他株主が18.1%になります。2022年4月に投資実行予定です。

2. Mainstream概要

本店所在地 アイルランド ダブリン

沿革 2008年：設立
2021年：Aker Horizons参画（75%）

展開国 中南米・アフリカ・アジア・欧米諸国で陸上風力・太陽光及び洋上風力を展開
主要市場のチリ、南アフリカ等を中心に展開中(従業員約470名)

開発実績 6.5GWの開発(英洋上風力、チリ、南アフリカ)実績あり

保有資産 建設・操業中資産及び開発パイプラインを含む合計16.6GWの資産(*)を保有
(*) 開発実績6.5GWは当該資産には含まず

開発目標 上記16.6GW資産の立ち上げを含め、今後10年間で25GW

次に出資参画先のMainstreamについて説明します。

Mainstreamは2008年に創設された再生可能エネルギー事業者であり、2021年にAker Horizonsが75%株主として参画しました。本社はアイルランドのダブリンです。

中南米・アフリカ・アジア・欧米諸国に於いて陸上風力・太陽光及び洋上風力事業を展開し、チリ・南アフリカを中心に全世界に従業員約470名を擁しています。

Mainstreamは英国洋上風力等、6.5GWの開発実績と共に、チリ・南アフリカの建設・操業中資産及び土地確保済みの開発パイプラインを含めて、合計16.6GWの資産を保有しております。今後、地理的市場拡大、更に下流・顧客ビジネスへのシフトを軸に、今後10年で25GWを開発し、再エネグローバルメジャーを目指します。

3. Mainstream競争優位性

- 強力な開発チームを擁し、日照量や風況条件の良い土地の確保や許認可取得のノウハウに秀でる
- 案件開発に於いて厳格なゲート管理方式(*)で有望案件を選別することで高い案件成功率を誇る
- チリ・南アフリカでは既に再エネのリーディングプレイヤーであり、ベトナムや洋上風力等にも展開

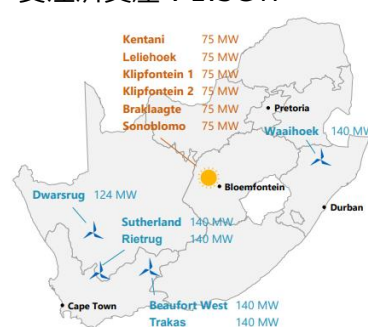
(*)プロジェクトの進捗度等に応じて0~8つのステージに分け、各ステージ間にゲート審査を設定。評価・ふるい落としを徹底し、各案件を管理

チリ 建設中資産：1.3GW



Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

南ア 受注済資産：1.3GW



5

Source: Aker Horizons 4th quarter 2021 report



Mainstreamの競争優位性について説明します。

Mainstreamは注力国に専門性の高い従業員を擁し、自社の市場競争力が出せる新規マーケットを見極め、早期に日照量や風況条件の良い土地の確保、許認可取得のノウハウに秀でております。

また案件開発に於いて、厳格なゲート管理を実施し、有望案件を選別することで成功率を高めてきました。

グローバルポートフォリオの中でも、チリ・南アフリカでは再エネのリーディングプレイヤーとなっております。具体的には、チリは2008年から参入、現在建設中の1.3GWの資産を保有しております。また、南アフリカは2009年から参入しており、直近では昨年10月の入札で1.3GWを受注しております。

また、洋上風力分野では、過去英国の建設・操業中資産の内の約20%を開発した実績があり、その優位性を活かし、伸び行く欧米洋上風力市場の開発を強化中です。更にベトナムの洋上風力開発に於いても国家電源開発計画に基づく投資ライセンスを取得し、開発を主導しております。

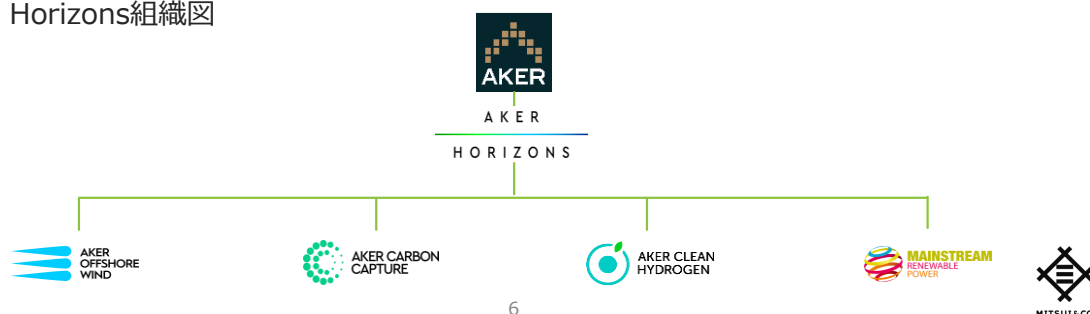
これらの国は今後も旺盛な再エネ需要が見込まれていることから、継続的な受注・開発の加速に取り組んで参ります。

4. Akerグループ概要

- Aker ASAは、1841年創業、ノルウェー第2位の石油ガスを中心とする複合企業グループ。近年脱炭素に舵を切り、再エネ分野の中核企業として2020年にAker Horizonsを設立。
- Aker Horizonsは傘下にMainstreamの他、①CO2貯留事業者(Aker CCS(*))、②グリーン水素・アンモニア事業者(Aker Clean Hydrogen)、③洋上風力開発事業者(Aker Offshore Wind)を展開し、脱炭素事業を推進。

*CO2回収・貯留、Carbon Capture Storageの略

Aker Horizons組織図



本案件の事業パートナーであるAkerグループについて説明します。

Akerグループは、1841年創業の老舗企業で、創業時の機械設備製造・船舶保有事業から変遷を重ね、現在ノルウェー第2位の石油ガス企業グループです。

近年のノルウェー政府の政策を受け脱炭素に大きく舵を切り、この分野の中核企業としてAker Horizonsを設立し、傘下にMainstreamの他CO2貯留事業を行うAker Carbon Capture (CCS)、グリーン水素・アンモニア開発事業者のAker Clean Hydrogen、洋上風力開発事業者のAker Offshore Windを保有しております。

先ほどご説明申し上げた通り、当社は2016年よりAkerグループとの共同事業を推進しておりましたが、今回のMainstreamへの出資参画を通じ、同社とのパートナーシップを一層拡大します。

5. Mainstreamの企業価値向上

当社参画によるValue-up



- ◆ 当社既存発電ポートフォリオにて蓄積した建設・操業効率化（デジタル化含む）ノウハウ共有



- ◆ 新規マーケット開拓
- ◆ 新規事業開発の推進



- ◆ 当社顧客ネットワークを活用したコーポレートPPA(*)締結の促進

(*)電力販売契約、Power Purchase Agreementの略

Copyright © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

7



Mainstreamの企業価値向上について説明します。

まずMainstreamのビジネスモデルとして、自社開発資産の操業による事業収益に加えて、完工後に持分の一部売却を行うことで収益性を確保・向上させます。

更に当社はAker HorizonsとMainstreamを共同経営することで、Mainstreamの成長加速・企業価値向上を目指します。

Aker、Mainstreamの当社への期待は、世界各国での大型発電所建設・運営ノウハウやグローバルな顧客ネットワークです。これらに基づき、特に当社が強みを持つブラジル・アジア等への地域展開力を梃子にした新規マーケット/新規事業開拓（ジャングルガイド）、産業顧客ネットワークを活用したコーポレートPPA締結促進を行うことで同社の成長に貢献し、企業価値向上に取り組む方針です。

6. 気候変動を機会とする事業への取組方針と本件の位置づけ



Mainstreamへの出資参画の戦略的意義をご説明するに当たって、昨年12月のESG Dayでもお話ししましたが、気候変動を機会とした事業への取組方針についてご説明します。

当社は低炭素・脱炭素への社会的ニーズの高まりを受け、2030年に発電ポートフォリオにおける再エネ比率を30%超に引き上げることを目標としております。

その達成のため、再エネ電源については、規模感ある大型再エネへの取組拡大、地域のニーズに応じた地産地消型の分散電源への取組を進めて参ります。

本件は規模感ある大型再エネ取組の一環であり、Mainstream参画により、再エネ開発機能と、多数の開発パイプライン案件の両方を手に入れることができ、当社の脱炭素社会に向けた再エネ事業への取組、ひいては2030年迄のGHGインパクト半減へのロードマップ達成における、GHG削減貢献を加速する絶好の機会となります。

7. 再エネをコアとした強い事業群の形成

Mainstreamへの出資参画及びAkerとの協業を起点とする事業群



エネルギーソリューション

Mainstreamを核・起点とした電力物流・エネルギーマネジメント・蓄電池等を活用した顧客向けエネルギーサービスの展開



Power to X

Akerグループとグリーン水素・アンモニア、CCS等の関連ビジネス展開・創出・拡大

最後に、再エネをコアとした強い事業群の形成について説明します。

本件では、Mainstreamが開発する再エネを起点に、電力物流・エネルギーマネジメント・蓄電池等を活用した顧客向けエネルギーサービスを推進し、同社の更なる企業価値向上に繋がります。

またAkerグループとのパートナーシップ強化により、グリーン水素・アンモニアの製造・輸出やCCS等、次世代の代替エネルギーの共同事業機会を両社で創出していきます。

ESG Dayでもお示した通り、当本部では再エネをコアとして、そこから派生する関連事業への取り組みを通じた力強い事業群の形成を目指しております。

今般のMainstreamへの出資参画はその重要なステップであり、今後も多様なアプローチを通じ様々な事業本部と連携しながら、当社総合力を発揮し、当社事業群全体の付加価値の拡大に積極的に取り組んでいきます。

説明は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

360° business innovation.

